

第15回 会員向け研修会 開催報告

会員発表の部 要旨

暦の漢字―「仏滅」は縁起がよくないのか？―

矢作 詩子さん

学習院の生涯学習センターで「大人のための漢字学習」講座を11年間担当し、毎年末には必ず暦の話をしていました。本日は、その一部を抜粋し、暦の歴史および仕組みを紹介いたします。

日本人はカレンダーが大好きな国民と言われています。カレンダーの語源は「月が出た」と叫ぶ(さ)であり、最初の暦は月の満ち欠けを見て作られました。「こよみ」とは「日読み」からきた言葉です。「暦」とは、国立天文台では太陽、月、惑星など、天体が日々移動していく状況を示した「運行表」を指します。その暦において重要な用語が月の満ち欠け(位相)の変化を表す「朔、弦、望」です。「朔」とは「遡る」という意味で、はじめて肉眼で捉えることのできる月、すなわち三日月が出た日から2日遡った新月のことを指します。「弦」は、上弦の月、下弦の月というように弦を張った弓の形に月をなぞらえています。「望」は、遠くを望むという意味から満月のことです。そうしてまた月は欠けていき、30日後は「月ごもり(こもり、晦日)となります。

さて暦の歴史について触れますと、中国から伝来した暦は、月の動きを基にして日付を表す太陰暦に、太陽の動きを基として季節を表す太陽暦を併用した「太陰太陽暦」でした。江戸時代に、日本の風土にあった独自の暦が渋川春海によって作られました。明治5年には欧米諸国と日付を揃えるため、太陽暦が採用されましたが、大混乱に陥りました。

現在、毎年、暦は誰がどのように作るかというと、国立天文台の暦計算室が暦要項を作り、前年の官報で発表しています。春分の日や秋分の日など、「国民の祝日」は計算をして決められます。「二十四節気」や日本独自の「雑節」も記載されています。日本人は季節感あふれる文化を育んできましたが、暦は大切な役割を果たしています。

暦には、中国の時刻占いである「六壬時課」から影響を受け、大安や仏滅といった「六曜」も記載されています。この六曜の順序は必ず決まっており、旧暦では各月に配当されていました。例えば正月と7月は1日が必ず先勝で始まるようになっています。よって、旧暦の「中秋の名月」となる8月15日は、8月が友引で始まるため、15日目は必ず仏滅になるのです。このような単純な循環形式であるため、仏滅は縁起が悪いとはいえないのに、私たちは仏滅と聞くことと不吉に感じてしまいます。ここに、迷信を迷信と片付けられない日本人の国民性を見ることが出来ます。



六曜	暦日	先勝	友引	先負	仏滅	大安	赤口
		正・七	二・八	三・九	四・十	五・十一	六・十二

※読み方は複数あります

お知らせ 漢字・日本語検索Webサイト「漢字ペディア」をお使い下さい!

パソコン・スマホ・タブレットから利用可能

利用無料! ※通信料・パケット料は利用者負担

『漢検 漢字辞典第二版』に収録している漢字や言葉の情報をもとに制作しています!(収録字数 約6300字)

- 漢字の検索、言葉の検索が可能!
- 索引も充実!(音訓索引、部首索引、総画数索引、四字熟語索引、故事・ことわざ索引、同音異義索引、熟字訓・当て字索引)
- 1級・準1級の学習にどうぞ!



URL <http://www.kanjipedia.jp>

字体・字形(表示される漢字の形)はご利用の機器等の環境により異なります。